

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101687		
法人名	有限会社 マインド		
事業所名	グループホーム愛の郷		
所在地	山口県下関市一の宮東町3丁目380-1		
自己評価作成日	平成22年6月25日	評価結果市町受理日	平成22年11月1日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年7月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然や温泉でゆったり過ごしてもらえるホームです。近くの幼稚園との交流もあり、年2回ダンス等を披露してもらってます。職員は、利用者一人ひとりに寄り添えるよう、心がけています。管理者、職員一丸となって、利用者の笑顔を増やすことを目標にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭での生活の延長で一人ひとりがその人らしい生活ができるようにと、利用者と家族と一緒に受診して情報を共有できるよう支援しておられます。受診時には、帰路喫茶店に寄りゆったりとした時間を過ごされたり、事業所の諸行事等に案内をして、可能な限り家族と共に過ごす支援をされています。毎月1回主任会議を開催され、職員の意見が運営に反映されるように取り組まれたり、介護計画作成の方法の見直しを検討されるなど、職員も明るくチームワークもよく、前向きに日々ケアに取り組んでおられます。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛の郷の理念を職員と一緒に考え、共有している	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を職員と一緒に作成し、玄関に掲示し、理念を歌詞にしたCDを作り、利用者と一緒に毎日歌ったり、体操をして、理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩しながら地域の人と会話したり、挨拶を交わしたりし、親しさを増している	自治会に加入し、地域のほたる祭りや盆踊り等の案内があり、参加している。幼稚園児との交流や散歩時に地域の人と挨拶を交わしたり、野菜やみかんをもらったり、町内の草取り、ゴミ拾いを行っている。事業所の夏祭りには地域の子ども会と交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の独居のお年寄りを、民生委員と共に援助している		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の評価を活かし、マニュアルの見直し等改善に職員と共に取り組んでいる	評価の意義を理解し、常勤者が中心となって記載し各ユニットの主任がまとめ、管理者が確認後に話し合っって作成している。日々のケアの振り返りとなり、評価を活かして改善に取り組んでいる。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見の中に、ホームの行事に参加したいというものがあ、夏祭り等への参加を検討している	周辺の自治会長、副会長、民生委員、地域住民(保護司、県議、市議等)、地域包括支援センター職員、利用者、家族等で2ヶ月に1回開催し、外部評価報告、家族会総会の報告、現状報告、緊急時医療対応、災害時の協力体制等について意見交換し、サービスに活かしている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らない事は、その都度市の担当者に直接聞くようにし、より良いケアが出来るよう取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センターの担当者に困難事例の連絡や相談をして、日頃から協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>何が拘束になるのかを勉強会等で全員がきちんと理解出来る様取り組んでいる。状況等で、施錠する場合もあるが、最小限にしている</p>	<p>方針、マニュアルを作成し、事業所内研修を実施して、全職員が身体拘束の内容、弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については周辺の環境を考慮して施錠する時もあるが、見守り体制の工夫や外出傾向の把握に努め、一緒に出かけるなどしている。</p>	
8		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の研修を行っている</p>		
9		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援を社会福祉協議会にお願いしている利用者がいる。権利擁護に関しては、なかなか理解は難しい</p>		
10		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、十分説明している。改訂の時は直接家族に説明し、理解を図っている</p>		
11	(7)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族とは日頃よりコミュニケーションを図り、意見が言い易い様な関係をつくることに努めている</p>	<p>相談、苦情の受付体制、外部機関の明示、苦情処理手続きの周知をすると共に、家族会や家族参加の行事時や来訪時に話し合いができるように、日頃より意見が言いやすい関係作りに努めて、家族等の意見を運営に反映できるよう取り組んでいる。</p>	
12	(8)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営の主体を職員にし、管理者はアドバイザー的な役割をしている</p>	<p>日頃から職員との話し合いに努め、月1回の主任会議に出された意見や提案は管理者がまとめ、運営者と検討し、職員の意見(職員の食事代、入浴対応等)を運営に反映させている。</p>	
13		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者は、ミーティング等には出来るだけ参加し、状況を把握するようにしている。体調を崩した職員の代わりもしている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は最大限参加できるようシフトを組んでいる。内部研修も行っている。	勤務の一環として外部研修に参加できる体制となっており、月1回ミーティング後に復命研修をしている。事業所独自の研修や働きながらのトレーニングにも取り組んでいる。研修計画はないが、研修案内、勤務変更、資格取得の支援の検討と配慮をしている。	
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会を利用し、他施設の職員の見学や、訪問を行っている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族から本人についてに情報を得る様にし、不安に思っている事等を把握する様に努めている		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームへ入居する理由等、家族の状況、関係等も理解する様に努めている		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を見極め、何を優先するのが良いのかを、ご家族等と話し、他施設等も紹介している		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話の中で、本人の希望を聞き、なるべく添える様、職員で話し合っている		
20		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来られた時は、日常の様子を伝えるとともに、職員も会話に加わるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前に暮らしていた場所に、ドライブに出かけることもある	一緒に働いていた人や友人の来訪があったり、馴染みの美容院への送迎、墓参りや馴染みの米屋や自宅、畑など利用者が生活されていた場所へドライブに出かけるなど、馴染みの関係が途切れないように努めている。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話に加わるのが苦手な利用者には、職員がさりげなくフォローしている。孤立しない様に支援している		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の了解を得て、面会に行かせてもらっている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を把握出来た場合は、家族を交えて、可能かどうか話しあっている	日々の会話等の中から思いや意向の把握に努め、申し送り簿や個人記録に記入して把握に努めている。困難な場合は家族に相談後に職員間で本人本位に検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から入居前の生活を聞き、なるべく変わらない生活が送れるよう話合っている		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ない決め付けず、いろんな事をしてもらっている		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、本人や家族の意見を中心に取り入れながらケアプランを作成している	月1回カンファレンスを開催し、本人、家族、主治医の意見などを反映した計画を作成すると共に、アセスメント、モニタリングを繰り返し、3ヶ月の1回の見直しを行っている。各ユニットの作成方法を統一して、個別の具体的な介護計画作成について検討中でスキルアップに取り組んでいる。	

グループホーム 愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「いつもと何か違う」を大切にしている。介護計画に沿って実践できているかは、日々記録している		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の支援が得られない利用者も数人いる。受診、買い物等の支援をしている		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段から民生委員と連絡をとる様になっている		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外の受診も支援している。家族への連絡もきちんとできている	希望するかかりつけ医で、眼科等は家族と連携して送迎や付き添いをしている。心療内科医の月1回の往診、緊急時の受診支援など、適切な医療を受けられるよう支援をすると共に、受診の情報を共有している。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員にも、日常の関わりを持ってもらい、利用者の状態を把握するようにしている		
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院の際は、ムンテラに参加させてもらい、ホームに帰っての生活がスムーズに出来るよう支援している		

グループホーム 愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、家族と十分話し合いを持つようにしている	重度化した場合における対応に係る指針、看取りに関する考え方、本人及び家族との話し合いや意思確認の方法等の看取りに関する指針を作成し、明示して、本人、家族、医師、看護師等と十分話し合いを持ち、看取りが不可能な時は他施設等の移設を説明しながら方針を共有している。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	薬は3回確認する等、事故防止には取り組んでいるが、転倒を未然に防ぐ工夫や取り組みは、今後の課題である	ヒヤリはっと事故報告書を記入し、検討して一人ひとりの状態に合わせた事故防止に取り組んでいる。救急救命法や転倒、骨折、意識不明等の応急手当や初期対応の定期訓練は実施していない。	定期的な訓練の実施
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	缶詰のパンを用意している。運営推進会議で避難訓練の協力を呼びかけているが、実現していない	火災、風水害マニュアルを作成し、スプリンクラー、通報装置の整備、年2回の消火器の使用訓練、避難訓練を実施し、利用者も参加している。運営推進会議のメンバーである自治会長等と話し合い、地域の人との協力を得るための検討をしている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目の前に起こっている事だけが、真実ではなく、利用者の本当の気持ちに、職員が気付けるよう、日頃より心がけている	マニュアルを作成し、研修を実施して、一人ひとりの人格を尊重し、目立たず、さりげない言葉かけや対応をするように取り組んでいる。記録類は人目につかない事務所に保管をして、取り扱いに注意している。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の決定や、嗜好品について、本人の希望を出来るだけ実現できるよう支援している		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操等皆で行うこともあるが、無理強いはず、本人のペースを守るようにしている		

グループホーム 愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敬老会等家族が集まる時等、本人の希望があれば、マニキュア等のおしゃれを支援している		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の食べた食器をカウンターまで各自が持って行ったり、順番にかたづけを手伝ってもらっている	朝食、夕食は事務所で調理している。昼食は併設の施設からの配食で利用者と一緒に盛り付けをしている。片付けや茶碗洗い、皮むきなど、一人ひとりの職員も一緒に同じ物を食べながら楽しめる工夫をしている。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量には特に気をつけている。医師より制限をうけている利用者もいるので、職員全体で話し合いながら支援している		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はみがきを行っている。歯ブラシもミルトンで清潔に心がけている		
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、リズムを職員全員が把握できるようにしている。定時誘導も行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声掛けや時間対応、生活リズムに沿った支援に努めている。	
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かすことを心がけているが、便秘になった利用者については、担当医と十分相談しながら下剤を調整している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間はゆっくりと様になっている	職員間で話し合い、日曜日を除き、9時から11時30分まで対応しているが、希望すれば毎日入浴できる。入浴拒否される方には、一人ひとりに合わせた声かけの工夫や2人体制での入浴、シャワー浴、足浴、清拭の支援もしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出されたり、いつもと違う時間を過ごした利用者は、様子観察をし、横になってもらう等体調に注意している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が一目でわかるよう、表にしている。薬が変わった時は、職員全員が把握し、少しでも変わったことがあれば、すぐに主治医に連絡し、指示を受けるようにしている		
50	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性の利用者もモップがけをしてもらう等、それぞれ役割を持ってもらうようにしている。週1回のコーラを心待ちにしている利用者もいる	折り紙、掃除、貼り絵、体操、畑作り、草取り、花植え、料理(お好み焼き、手巻き寿司)、新聞読み、盆拭きなど楽しみごとや活躍できる場面づくりや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候をみながら、お昼を外で食べたりしている。地域の協力は是非お願いしたいとおもっている	受診後に喫茶店に寄ったり、行ったことのあるコインランドリーに出かける、散歩、個別の買い物、ドライブ(自然公園、庭園巡り)、神社参拝、四季の花見、初詣、選挙など、利用者の希望にそって戸外に出掛けられるよう支援している。	
51		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で管理している利用者はいない。買い物に行った際は、レジで支払をしてもらったりしている		

グループホーム 愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したり、電話を取り次いだりしている。手紙を書く支援もしている		
53	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、写真を飾る等し、利用者が楽しめる空間を創るよう工夫している。作品も飾っている	共有空間は天井が高く、明るく広いので七夕飾りや絵画、折り紙の作品等、飾りや居場所のソファや畳の間があって、ゆったりとした空間になっており、調理の様子も眺められるし、見守りもしやすくなっている。窓からは家庭菜園等が眺められたり、ベランダに出ると季節の景や風が感じられるなど、居心地良く過ごせる工夫がされている。	
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りの場所がそれぞれ出来てきている。重なったときには、イスの移動等に対応している		
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を部屋に置いている利用者もいる。家族の写真や、職員との写真を居室に飾ったりしている	ベット、衣装ケース、テレビ、テーブル、洋服かけ、鏡台、時計、スタンド、人形、椅子、机等使い慣れた物や好みの物を活かしたり、家族の写真や職員と撮った写真、作品を飾るなど一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫をしている。	
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の体型に合わせて、イスを変えたりしている		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム愛の郷

作成日：平成 22年11月 1日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	急変や応急手当の初期対応の訓練が、しっかりと行えてないため、職員全員が習得できていない。	全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける。	内部研修で急変や応急手当の初期対応の訓練を出来れば月1回、看護師を中心に行う。職員全員が習得できるまで、繰り返し行う。	12ヶ月
2	24	利用者本人の思いや家族の意向がしっかりと把握できていない。	利用者、家族の意向を職員全員が把握する。	センター方式の本人の思いシートを活用する。入居時にしっかりと家族の意向を把握出来る様、シートに記入して頂く。	6ヶ月
3	14	外部研修に参加したり、内部研修を行っているが、年間の研修計画がはっきりと立っていない。	計画をたてて外部研修に参加したり、内部研修を行う。	年間での内部・外部研修計画を作成し、効果的に効率よく研修を行えるようにする。	6ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。